



## 環日本海地域の環境問題

- ✓ タンカーの座礁等に伴う石油流出汚染
- ✓ 中国黄海、韓国沿岸の赤潮・プランクトンの異常繁殖 (HAB) → 養殖業に被害
- ✓ 化学物質 (難分解性物質 (POPs)、環境ホルモン)
- ✓ 中国でのe-WESTを含む廃棄物不適正処理問題
- ✓ 海洋ごみ (漂流・運着ごみ) 被害
- ✓ 地球温暖化の影響
- ✓ 過剰漁獲による水産資源の減少
- ✓ 自然海浜の減少、沿岸生態系の劣化

①これら環境問題の原因は？

**人間の活動が深く関与**

②沿岸諸国との関係は？

**海洋環境問題を共有**

いま我々は

**環境共同体の形成が必要！**

## 海辺の漂着物調査のわらい

＜着眼点＞

自治体と企業による国際共同調査を高度の解決には、**海辺の漂着物調査の実施**とも**連携**することが必要不可欠である。

＜課題等＞

- ① 海洋自然環境の保全・管理は、国・県・市町村及び沿岸諸国等との互恵的な連携・協力体制の構築が必要である。  
 ⇒ **人材育成・環境教育の推進**（シンポジウム）  
 ⇒ **市民参加型調査の推進**
- ② 自治体間の連携・協力体制の構築  
 ⇒ **草の根的な連携・協力体制の構築**

## 漂着物調査イメージ



## 海辺の漂着物調査(1996年～)

【1996年度調査規模】

参加国 : 日本  
 参加人数 : 延べ548人  
 自治体数 : 10自治体  
 調査海岸数 : 16地点

【2006年度調査規模】

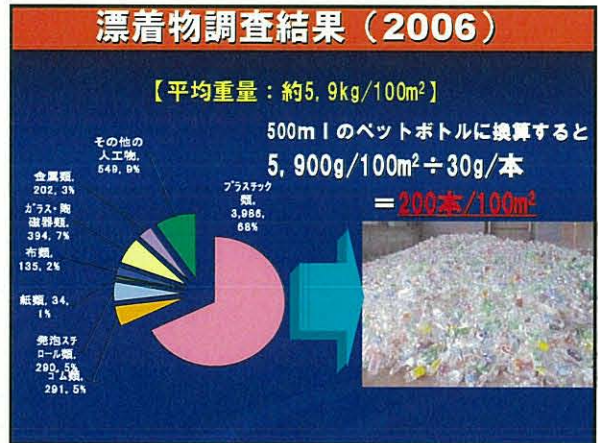
参加国 : 日本、中国、韓国、ロシア  
 参加人数 : 延べ2,820人  
 自治体数 : 32自治体  
 調査海岸数 : 71地点



## 海辺の漂着物調査状況(2007)

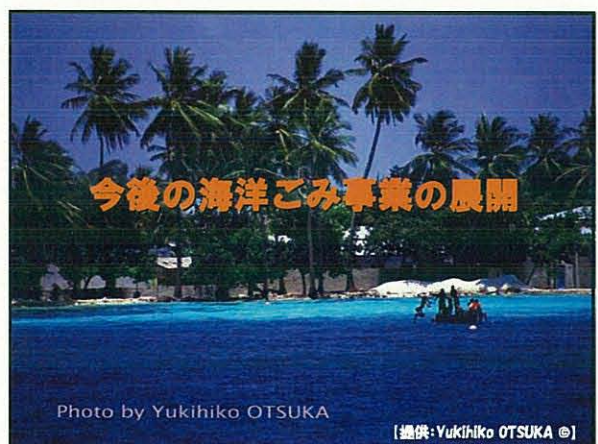
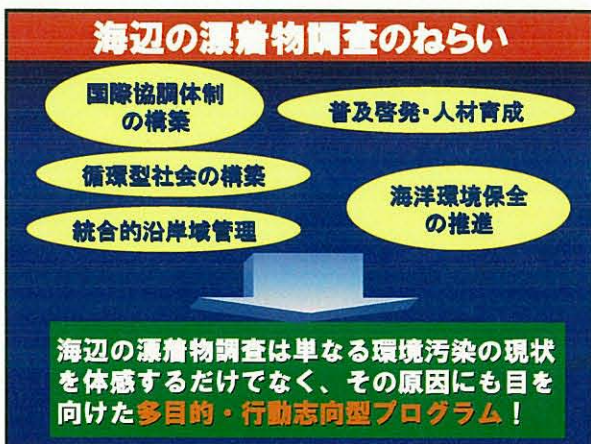




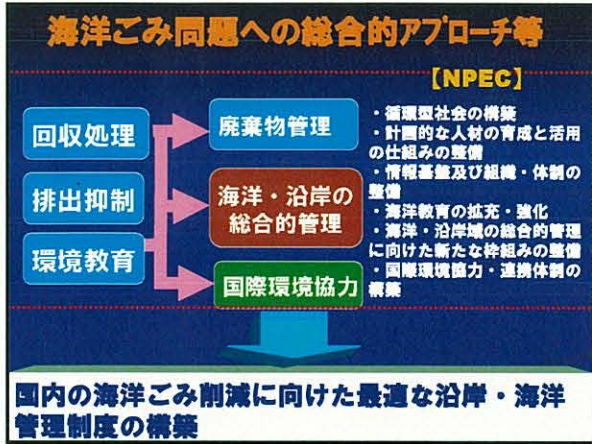


### 海辺の漂着物調査の事業効果

	区分	事業効果
調査活動から得られること (Process)	環境教育	市民への普及啓発
	海岸清掃手法の平準化	海洋ごみの削減 共通意識の醸成 精度管理・政策評価
	NOWPAP連携	国際プロジェクト化・継続化
調査結果から得られること (Result)	実態把握	科学的知見の集積・分析
	結果発表 (国際会議、論文、マスコミなど)	知見の共有 政策立案への反映 発生源対策







### 問題解決のマトリクス表

区分	現状	目標	課題	対策
海洋ごみ問題解決に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>大量に人工物が蓄積（離島は特にひどい）</li> <li>景観が悪い</li> <li>海洋生物が餌取・餌食</li> <li>突如（量、傾向）が不明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>回収・処理の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理費用の確保（海岸、海中、海底ゴミ）</li> <li>処理体制（制度）の整備及び構築</li> <li>回収したものは埋立処分</li> <li>モニタリング手法・体制の確立</li> <li>海洋ごみ情報の管理</li> <li>沿岸の管理・利用の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング手法の開発</li> <li>継続的モニタリング体制の整備・構築</li> <li>回収処理技術・手法の開発</li> <li>統合的な海洋・沿岸管理制度の整備</li> <li>情報基盤の整備・提供</li> <li>etc</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみは継続発生</li> <li>発生に関する規制はない</li> <li>人的被害が少ない</li> <li>海に人がいない</li> <li>海外からも発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>排出抑制（発生の防止）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源・経路が複雑で多岐（※陸上活動から多数、一部地域では国外からも発生）</li> <li>発生抑制方策の不備</li> <li>市民、関係者が問題を正しく認識・理解していない</li> <li>CSRへ海洋ごみ問題が組み込まれていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源の特定及び対策実施（発生規制等）</li> <li>海洋環境に優しい製品開発</li> <li>市民等への普及啓発</li> <li>環境教育・協働ツールの開発・推進</li> <li>国際的枠組みでの事業展開</li> <li>陸上の3R推進活動への組み入れ</li> <li>etc</li> </ul>

### 問題解決のマトリクス表 事業成果

区分	課題	対策	目録事業	
海洋ごみ問題解決に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理費用の確保（海岸、海中、海底ゴミ）</li> <li>処理体制（制度）の整備及び構築</li> <li>回収したものは埋立処分</li> <li>モニタリング手法・体制の確立</li> <li>海洋ごみ情報の管理</li> <li>沿岸の管理・利用の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング</li> <li>継続的モニタリング体制の整備・構築</li> <li>回収処理技術・手法の開発</li> <li>統合的な海洋・沿岸管理制度の整備</li> <li>情報基盤の整備・提供</li> <li>etc</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NOWPAPモニタリングガイドラインの策定</li> <li>政府・NOWPAP報告書に採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前講座、マスコット</li> <li>NOWPAP MALITAの実施</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源・経路が複雑で多岐（※陸上活動から多数、一部地域では国外からも発生）</li> <li>発生抑制方策の不備</li> <li>市民、関係者が問題を正しく認識・理解していない</li> <li>CSRへ海洋ごみ問題が組み込まれていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源の特定及び対策実施（発生規制等）</li> <li>海洋環境に優しい製品開発</li> <li>市民等への普及啓発</li> <li>環境教育・協働ツールの開発・推進</li> <li>国際的枠組みでの事業展開</li> <li>陸上の3R推進活動への組み入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋ごみサイクルの取組（※近隣の資源物調査の実施）</li> </ul>	

### 問題解決のマトリクス表

区分	対策	その他具体事業
海洋ごみ問題解決に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング手法の開発</li> <li>継続的モニタリング体制の整備及び構築</li> <li>回収処理技術・手法の開発</li> <li>情報基盤の整備・提供</li> <li>統合的な海洋・沿岸管理制度の整備</li> <li>etc</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NOWPAP海洋ごみモニタリングガイドラインの作成支援（海洋ごみデータ提供の構築（H20～H21※予定））</li> <li>海洋ごみリサイクル可能性調査の実施（H18）</li> <li>離島における海洋ごみ被害状況調査の実施及びマニフェスト策定（H19～H20）</li> <li>中国・韓国における「沿岸・海洋管理」制度等に関する実証調査（H19～H20）</li> <li>海洋ごみ削減方策検討会の開催（H19～）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生源の特定及び対策実施（発生規制等）</li> <li>海洋環境に優しい製品開発</li> <li>市民等への普及啓発</li> <li>環境教育・協働ツールの開発・推進</li> <li>国際的枠組みでの事業展開</li> <li>陸上の3R推進活動への組み入れ</li> <li>etc</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海洋ごみデータ提供の構築（H20～H21※予定）</li> <li>普及啓発パンフレットの作成・配布</li> <li>出前講座の実施</li> <li>情報交換会・講習会の開催</li> <li>NOWPAP支援</li> </ul>

